

公開セミナー

バランゴンバナナの民衆交易は  
どこまで生産者の自立に寄与できるのか  
～フィリピン産地調査報告～

PIGRIM MOUNTAIN VIEW  
CHRISTIAN COLLEGE

2015年6月20日(土) 14:00-16:30  
立教大学池袋キャンパス 8号館 3階 8304 教室

<<公開セミナー>>

バラゴンバナナの民衆交易は  
どこまで生産者の自立に寄与できるのか  
～フィリピン産地調査報告～

日本の消費者がフィリピンの小規模農民の自立を応援し、安全・安心なバナナを手に行ける仕組みとしてバラゴン・バナナの民衆交易を（株）オルター・トレード・ジャパン（ATJ）が始めて四半世紀がたちました。

2014年3月16日、ATJとNPO法人APLAは、セミナー『バナナと日本人』その後—私たちはいかにバナナと向き合うのか？—を共催し、フィリピンバナナの生産から流通・消費を概観し、家族農業の視点からバラゴンバナナの民衆交易の今日的意義について考えました。

2014年度、農業経済学、社会人類学、欧米のフェアトレード運動に詳しい3名の研究者に委託してバラゴンバナナ産地の実地調査を実施しました。そして、バラゴンの民衆交易が生産者や地域にもたらした影響は何か、そして民衆交易の意義や価値をどう評価するかについてさまざまな情報や傾聴すべき提言や知見をいただくことができました。

南の生産者の自立支援を掲げて始まった民衆交易事業。調査報告を受けて民衆交易事業が取り組むべき課題とめざす新しい地平について、調査結果をもとに皆さんと考えたいと思います。是非ご参加ください。

【プログラム】

- 調査報告① 関根佳恵氏「未来をつむぐバラゴンバナナの民衆交易～コタバト州マキララ町を事例として」
- 調査報告② 石井正子氏「ミンダナオ島の先住民がバラゴンバナナを売ること、とは？」
- 調査報告③ 市橋秀夫氏「ネグロス島バナナ栽培零細農民と『自立』論」
- パネル・ディスカッション「バラゴンバナナ民衆交易への提言」、他

【日時】2015年6月20日（土）14:00-16:30（13:30開場）

【会場】立教大学池袋キャンパス8号館3階 8304教室

池袋キャンパスへのアクセス：JR各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線／有楽町線／副都心線「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分。

【参加費】500円（資料代として）

【主催】（株）オルター・トレード・ジャパン NPO法人APLA（あぷら）

【お申し込み先】

\*参加ご希望の方は、申し込みフォーム（<http://altertrade.jp/bananato>）からお申し込みできます。あるいは、お電話でご連絡ください。

\*できるだけ事前にお申し込みください（当日参加も可能です）。

【お問い合わせ先】（株）オルター・トレード・ジャパン（ATJ）

政策室 担当：小林 TEL：03-5273-8176

【発表者】

○市橋秀夫氏 埼玉大学教養学部  
教員、専門はイギリス近現代社会史  
研究。イギリスのフェアトレード文  
献の翻訳や、その歴史の変遷の調査  
などを行なう。2009年以降、バラ  
ゴンバナナ生産者の調査に断続的に  
関わっている。

○関根佳恵氏 愛知学院大学経済学  
部教員、専門は農業経済学。バナナ・  
ビジネス大手の多国籍企業ドール社  
の事業について調査・研究を行う。  
2013年に国連世界食料保障委員会  
の専門家ハイレベル・パネルに参加  
し、報告書『食料保障のための小規  
模農業への投資』を分担執筆。

○石井正子氏 立教大学異文化コミ  
ュニケーション学部教員。専門はフ  
ィリピン地域研究で、ミンダナオ島  
のムスリム社会を中心にフィールド  
ワークを行う。鶴見良行さんの『バ  
ナナと日本人』に影響を受けて、ミ  
ンダナオ島の地方史のなかに事象を  
位置づける手法を大切にしている。

【主催団体について】

1986年からフィリピン、ネグロス島の飢餓救援活動を展開した日本ネグロス・キャンペーン委員会（2008年、APLAに再編）が、生産者の自立を促す手段としてマスコバド糖の輸入を開始しました。バラゴンバナナを輸入するために、生活協同組合、市民団体などが共同出資して設立されたのがATJです。以来、取扱い商品（産地）はエコシュリンプ（インドネシア）、コーヒー（東ティモール、ラオス他）、オリーブオイル（パレスチナ）、塩（フランス）、カカオ（インドネシア・パプア州）に広がっています。